

平成22年湯河原町成人のつどい

社会教育課 内線832

【日 時】1月10日(日) 受付開始10:20 式典11:00～

【会 場】湯河原観光会館

【内 容】式典・写真撮影・記念のつどい

※当日は、案内状を必ずお持ちください。

なお、駐車スペースがありませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。



平成21年湯河原町成人のつどい

「二十歳を迎えて」

湯河原町成人のつどい実行委員会 **根間 海有来**

私も成人式を迎えることができ、大人としての責任ある一歩を踏み出すことになりました。

しかし、二十歳になったからといっても、日常生活に大きな変化があるわけではなく、大人になった実感はまだありませんが、二十歳になると、飲酒、喫煙、選挙権が認められます。その中でも、選挙権が得られるということは、社会を創るということであり、期待と不安でいっぱいです。私も社会の一員として、責任ある存在となり、これからはさらに、社会や政治に目を向け、これからの社会を創りあげていくのだと考えなければなりません。

私は小学校、中学校、高校とバレーボールを続けてきました。その中で、たくさんの人と出会い、色々なことを学びました。バレーボールの技術だけではなく、挨拶、正しい言葉遣い、何事にも前向きに取り組む姿勢など、多くのことを学びました。毎日の練習の中で得たことを、試合で発揮出来た時の喜びを共有し合え

た仲間は、私の大切な宝物です。

私にとって、この20年間はあっという間でしたが、思い返せば色々なことを経験し、たくさんのことを学ぶことが出来た20年間でした。今では、バレーボールを通じて学んだことを生かし、看護師になるための勉強に励んでいます。実習で病院へ行き、看護師の仕事を知り、人の命を預かるという責任の重大さを改めて感じました。実習での学びから、一つ一つの行動に責任を持ち、多くの知識を身につけ、常に初心を忘れないようにしていきたいと思いました。将来看護師になり、多くの人と関わりながら成長していき、人の命を助け、社会に貢献していきたいです。

最後に私は「人は一人では生きていけない」ということを強く感じています。それは、今まで出逢った多くの人たちが、私を支えてくれたからです。今まで出逢った全ての人たちに、心から感謝するとともに、これからもたくさんの人との繋がりを大事にしていきたいと思っています。

「二十年間の感謝を」

湯河原町成人のつどい実行委員会 **石井 素良**

この二十年、私は生まれた時からこの湯河原で育ってきました。

二十歳を迎え、自分自身が大人だという意識や責任感を感じ日々を過ごしているかと言うと、まだまだ未熟だと感じます。それは、きっと、困った時や挫折そうな時に頼れる人、例えば温かく育ててくれた家族や幼い時から自分を見守ってくれた人、そして、何もかもを共に笑い飛ばせる素晴らしい友達と、この湯河原の町で一緒に過ごす事がいつでもできるからなのかもしれません。そんな人たちのおかげで、今の自分がいます。些細な不平不満を言っても、不自由なく笑って泣いて、今を楽しむ事ができています。この機会に、感謝の気持ちを皆に伝えようと思います。

〔友達へ〕

今まで自分はなんで生きているのか、自分自身の存在が何なのかを疑問に思ったり、考えたりした時が皆にもあると思うけれど、最近になってやっと判った気がする。“自分自身”を一番実感できるのは、意外と単純で、困った時や悩んだ時に俺がお前らを頼るように、お前らがこんな頼りない俺を頼ってくれる時じゃないかと思う。誰かの心の中に、ちゃんと自分が居る事を実感できることは、凄い幸せなことだと思う。

一生の宝は紛れもなく皆の事。皆が皆ずっと一緒に居る事はできないかもしれないけれど、会えばまた騒

いで楽しくできたら幸せだと思う。いつもありがとう。

〔先輩、上司、恩師、見守ってくださる方々へ〕

私が知らなかったことや経験していないことを教えてくれ、技術や身のこなしや生き方すべてが一流で格好良くて、いつも憧れを抱いていた偉大な先輩方。真剣に話を聴いてくれ、その中でいつも私の事を思って、心に残る言葉を投げかけてくれる上司の方々。家族や親のように見守ってくれ、いつもいつも温かく背中を押してくれている方々。反抗し、生意気を言ってもしっかりと叱ってくれ、送り出してくれた恩師の方々・・・ありがとうございます。皆さんのような、立派な大人を目指していこうと思います。

〔最後に家族へ〕

他所には他所の事情があるように、我が家にも当然それがあったけれど、なにより生んでくれた事、愛情をもって育ててくれた事、色んな所へ連れて行ってくれた事、色んな経験をさせてくれた事、家族が増えた事、弟が生まれた事、挙げればきりが無いけれど、世界一の両親・弟・伯父、そして祖母へ・・・本当に本当にありがとうございます。今はまだ自分自身が不安定でも、いつか必ず安心をさせてあげられるように、家族が誇れるような男になれるように、授け育ててくれたこの命を大事にしながら、この先も歩んでいきます。

〔そして、皆へ〕

私たちが生きてきた短い間にも町の景色は変わってきたけれど、この湯河原が変わるならより良く、私たちの絆は変えずに、いつまでも一緒に湯河原を愛し守っていきましょう。